

福島第一原子力発電所の状況

2017年8月18日
東京電力ホールディングス株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 1.3 m ³ /h	26.6	1.35 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレ系：1.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m ³ /h	32.3	3.22 kPa g	A系： 0.03 vol%
		炉心スプレ系：約 1.3 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.6 m ³ /h	30.7	0.30 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレ系：約 1.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (8/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	38.2
2号機	循環冷却システム	運転中	30.1
3号機	循環冷却システム	運転中	29.8
4号機	循環冷却システム	運転中	28.1

各号機 SFP および原子炉ウェルヘドランジンの注入を適宜実施。

[1号機]

・2017/7/17 外気温が上昇する夏期においても、自然放熱によりSFP水温が運転上の制限値(60)に達しないことを確認する実証試験を開始(試験予定期間:2017/8末頃まで)。15:07にSFP循環冷却系の一次系を冷却している熱交換器への通水を停止し、冷却を停止。冷却停止時のSFP水温度は32.5。

* 熱交換器をバイパスした状態で運転。

[2号機]

・使用済燃料プール(SFP)水温評価*の妥当性および外気温が上昇する夏季におけるSFP水温を確認するため、SFP循環冷却系の一次系の運転を継続した状態で、熱交換器の二次系冷却水の通水を停止する試験を予定。この試験におけるSFP水温は、53 ~ 56 程度で安定するものと評価。SFP水温が評価上の最大温度(約56)を超える場合、または湯気の発生により2号機原子炉建屋内作業に影響を及ぼす場合には、本試験の継続可否を判断するとともに、必要に応じてSFP循環冷却系による冷却を再開する。試験期間は、8月21日~9月下旬頃までを予定。

* 冷却を停止した状態でも自然放熱によりSFP水温が運転上の制限値(65)に達しないと評価

[5号機]

・2017/6/29 使用済燃料プール冷却浄化系(FPC系)にて冷却している使用済燃料プール(SFP)について、FPC系を冷却している原子炉補機冷却系の弁点検を行うため、SFP冷却をFPC系から残留熱除去系(RHR系)に切り替え。切り替えの際にSFP冷却が一時停止。原子炉補機冷却系の弁点検が終了した段階で、SFP冷却をRHR系からFPC系に戻す予定。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (8/18 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備	増設 多核種 除去設備	高性能 多核種 除去設備
運転 状況	停止中 ^{*1}	停止中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・2017/8/18 8/16に発生した既設多核種除去設備A系の循環ポンプ1A出口ラインドレン弁からの水の滴下事象について、にじみが確認された配管内の水の放射能濃度は次の通り。

・全ベータ: 2.2×10^7 Bq/L ・セシウム 134: 1.9×10^4 Bq/L ・セシウム 137: 1.2×10^5 Bq/L
・コバルト 60: 2.0×10^4 Bq/L ・アンチモン 125: 6.5×10^5 Bq/L

- ・2017/8/17 1～4号機タービン建屋地下階の滞留水について、直接汚染水処理設備へ移送する系統の設備工事を実施中。当該工事の中で、新規設備を既設配管へ接続する工事を実施するにあたり、第二セシウム吸着装置を停止する期間が発生。
当該装置停止期間：8月18日～9月5日
当該装置が停止する期間については、運転上の制限を満足できない状態であることから、特定原子力施設に係る実施計画「特定原子力施設の保安」第1編第32条(保全作業を実施する場合)第1項を適用し、必要な安全措置を定めた上で、計画的に運転上の制限外に移行し、工事を実施。
なお、上記期間において第二セシウム吸着装置の停止を考慮した建屋滞留水位のシミュレーションを行った結果、建屋滞留水位の制限を超えないことを確認。
8/18 7:34に第二セシウム吸着装置を停止し、作業開始。

< 4. その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2016/3/31～ 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階:1～4号機の海側全面と山側の一部の凍結)を開始。
12/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所7箇所のうち2箇所(1号機西側・4号機西側の一部)について、凍結運転(第二段階)を開始。
- ・2017/3/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所5箇所のうち4箇所(1号機北側・1号機西側・3号機西側・4号機南側の一部)について、凍結運転を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

[3号機燃料取り出し用カバー等設置作業]

- ・2017/1/17～ 使用済燃料プールにて保管している燃料取り出しによる福島第一原子力発電所のリスク低減に向けて、燃料取り出し用カバー等設置作業開始。
7/31～ 燃料取り出し用カバードーム屋根の吊り上げ、組み立て作業開始。

[サブドレン他水処理施設の状況]

- ・2015/9/3～ サブドレン他水処理施設運用開始。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクDの分析結果[採取日 8/12]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、8/17 10:06～16:54 海洋への排水を実施。排水量 992m³。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクEの分析結果[採取日 8/13]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、8/18 10:33～ 海洋への排水を実施。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクFの分析結果[採取日 8/14]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、8/19 海洋への排水を実施予定。
- ・2017/8/2に発生した4号機原子炉建屋南西側に設置しているサブドレンピットNo.51の水位が一時的に低下した事象について、8/3以降、4号機原子炉建屋および廃棄物処理建屋近傍のサブドレン水の分析を実施。
8/13、14、16採取分について、前回の分析結果と比較して有意な変動はなし。

[地下水バイパスの状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンク分析結果(Gr3)の分析結果[採取日 8/10]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、8/18 10:00～ 海洋への排水を実施。

[1～3号機放水路の状況]

- 1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。
< 最新のサンプリング実績 >
・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

- < H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >
・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

- < 地下水観測孔・海水サンプリング実績 >
・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<最新のサンプリング実績>

- ・地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件、および地下貯水槽 i 南西側および北東側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、8/17 に採取した水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上